

連絡先：国土交通省（代表）：03-5253-8111  
（直通）：03-5253-8620  
海事局外航課 小森（内線：43303）  
山崎（内線：43366）

平成22年1月22日  
国土交通省海事局外航課

## 2009年の日本関係船舶における海賊等事案の状況及び 世界における海賊等事案の状況について

1. 2009年の1年間に日本関係船舶（日本籍船及び我が国の船舶運航事業者が運航する外国籍船）が海賊等（海賊及び海上武装強盗）から受けた被害の状況について、我が国の外航海運事業者等からの報告を基に、以下のとおりまとめました。

### [概要]

#### (1) 発生件数

日本関係船舶で、2009年に海賊等の被害（単に船舶に乗り込まれたものを含む。）を受けた船舶は5件（前年：12件）ありました。

#### (2) 発生場所

東南アジア周辺2件（前年：5件）アフリカ周辺3件（前年：5件）で発生しており、うち1件はソマリア沖において発生しました。

#### (3) 被害状況

ソマリア沖では、ソマリア東方約900kmの海域（公海上）において、航行中の船舶が小型船から銃火器らしきものによって発砲を受け、操舵室やレーダーマストに数発被弾し、追跡を受けるという事案が1件発生しました。また、東南アジアでは、タイの沿岸付近（領海内）において、航行中の船舶が小型船から銃火器らしきものによって発砲を受け、居住区画に数発被弾し、追跡を受けるという事案が1件発生していますが、いずれも回避操船によって海賊の追跡を振り切っています。その他、シンガポール沖を航行していた船舶に対する襲撃では、武装した賊に日本人船長等が一時拘束され、金品等が奪われる事案が発生しましたが、それ以外は錨泊中に発生した軽微な事案となっています。なお、被害船に乗船していた全ての乗組員に怪我等はありませんでした。

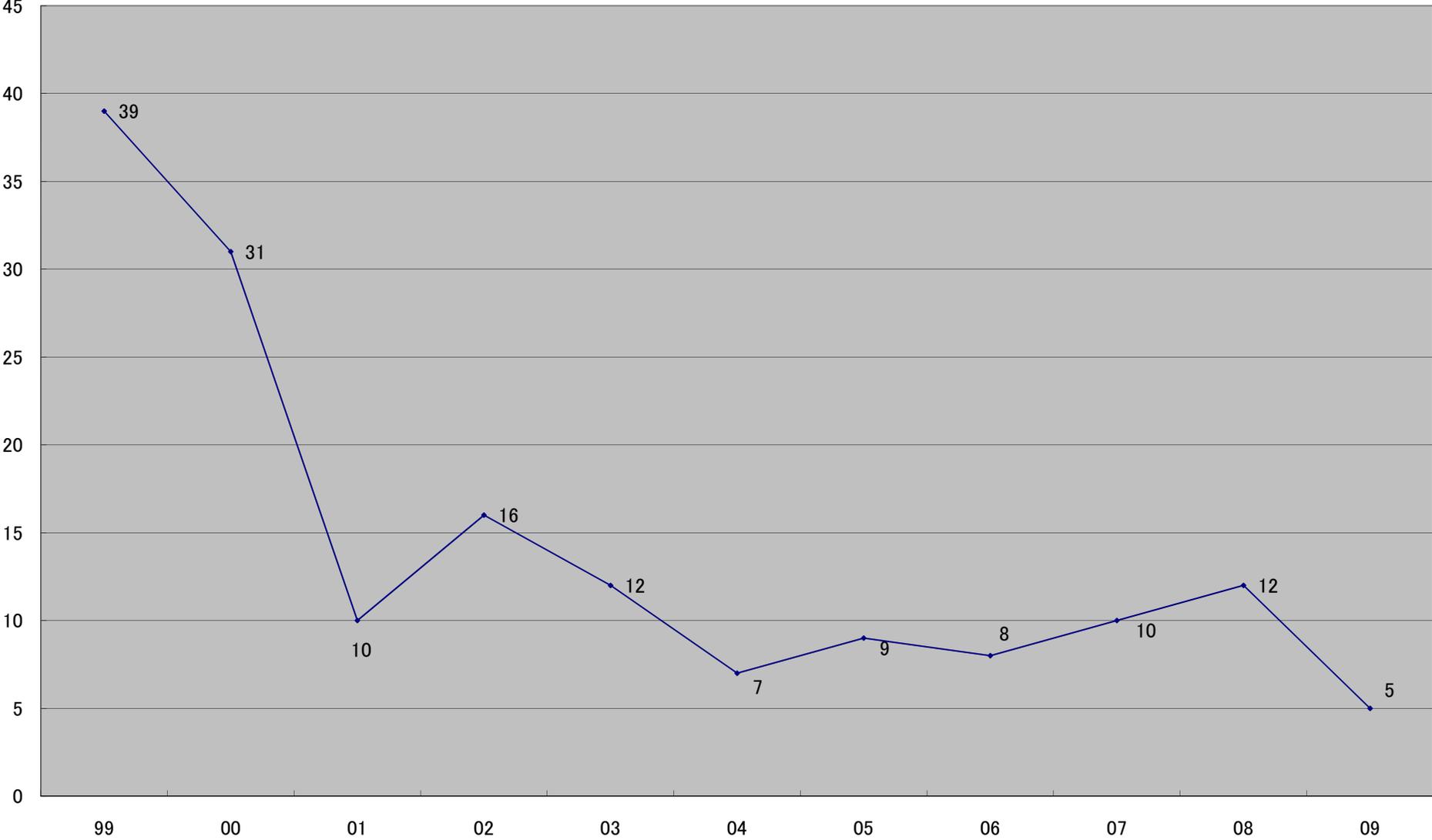
船籍別の内訳としては、パナマ籍3隻、ドイツ籍1隻、ケイマン諸島籍1隻であり、日本籍船はありませんでした。

2. 国際海事局（IMB）から、2009年の世界における海賊等に関する年次報告書（速報）が2010年1月14日に発表されました。同報告書の概要については、別添4及び別添5をご覧ください。

### [参考]

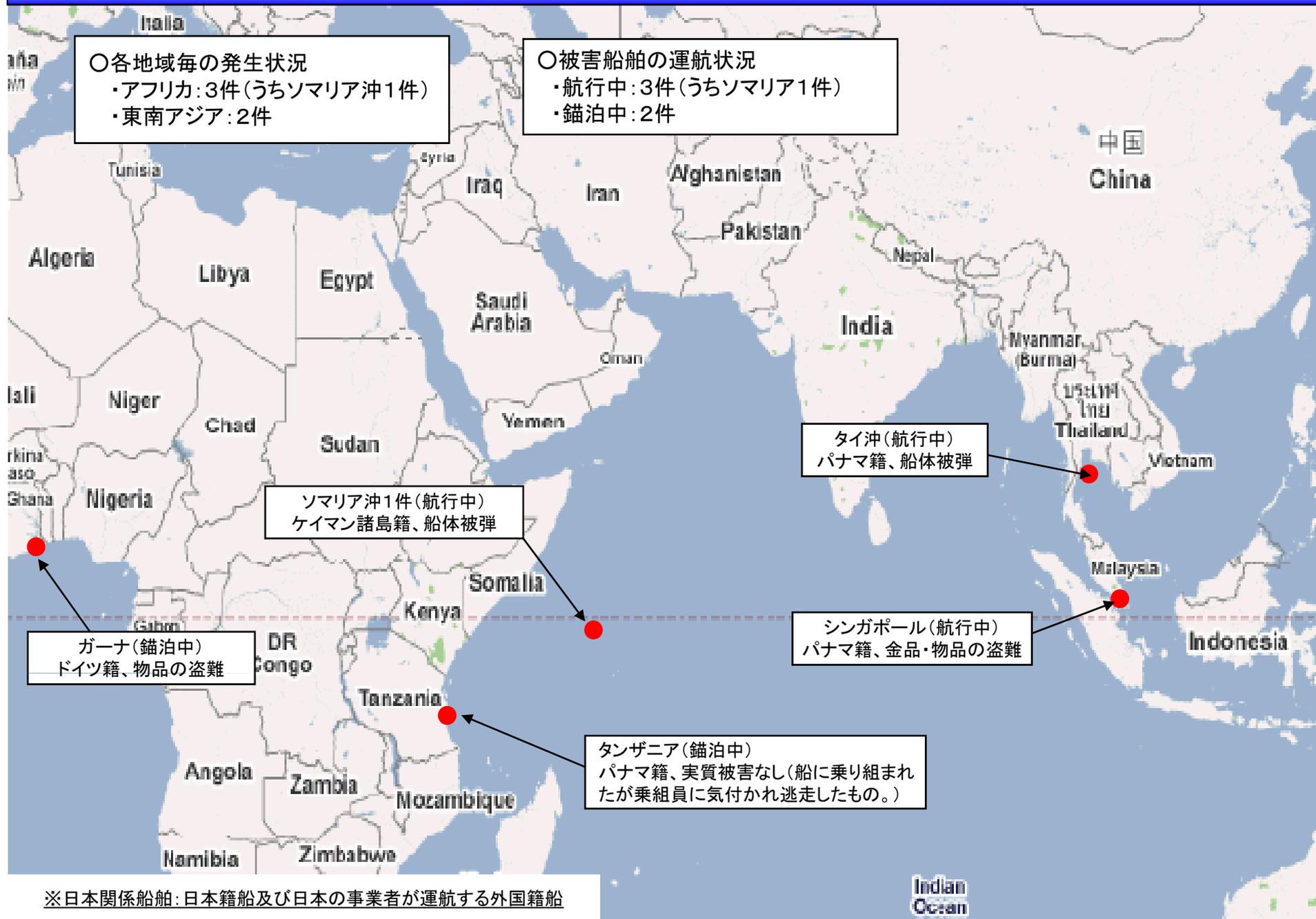
- ・日本関係船舶における海賊等事案の発生件数【別添1】
- ・日本関係船舶における海賊等事案について【別添2、3】
- ・世界における海賊等事案の動向【別添4】
- ・世界における海賊等事案の発生件数の推移及び海域別の発生状況【別添5】

# 日本関係船舶における海賊等事案の発生件数



注) 計上されている海賊等事案の発生件数は、人的被害、金品の被害及び船体の被害等の実害が発生した事案のほか、単に船舶に乗り込まれた事案を含めた数となっています。船舶に対して直接的な接触がなかった未遂事案については、発生件数に含まれていません。  
なお、この発生件数は、外航海運事業者等から任意に提供された事案のみを計上したものです。

# 日本関係船舶における海賊等事案について(2009年:5件)



※日本関係船舶:日本籍船及び日本の事業者が運航する外国籍船

## 日本関係船舶の海賊及び武装強盗被害状況について(2009年)

※日本関係船舶:日本籍船及び我が国の船舶運航事業者が運航する外国籍船  
 ※単に船舶に乗り組まれたものを含む。

番号	被害日時(日本時)	被害場所	概要	被害	船籍	総トン数	船種	乗組員	積荷
①	1月19日 1300~2115 までの間	ガーナ テマ港沖錨地	バース待ちのため、ガーナ・テマ港の港外で錨泊中、倉庫内のペイント缶及びコンテナ内の積荷の一部について窃盗被害があったもの。	ペイント缶及びコンテナ内の積荷の一部の盗難。 乗組員に被害なし。	ドイツ	25,713トン	コンテナ船	19名 ポーランド1 ドイツ4 ウクライナ1 フィリピン13	コンテナ
②	3月22日 2210頃	ソマリア東岸約900km	ケニア・モンバサ港に向け航行中、小型船から銃火器らしきものによって本船に発砲があり、操舵室の窓ガラス、天井、レーダーマストに数発被弾したが、回避操船によって、追跡を振り切ったもの。	操舵室の窓ガラス、天井、レーダーマストに数発被弾。 乗組員に被害なし。	ケイマン諸島	13,038トン	自動車運搬船	18名 全員フィリピン人	中古車
③	5月7日 0920頃	タンザニア・ダルエスサラーム沖錨地	バース待ちのため、ダルエスサラームの港外で錨泊中、パトロール中の本船乗組員が、ナイフで武装した2名が乗り込んできたところを発見。警報を鳴らしたところ、賊は海中に飛び込んで逃走したもの。	なし	パナマ	13,310トン	コンテナ船	19名 全員フィリピン人	コンテナ
④	6月28日 0215頃	シンガポール沖 (北緯1度57分、東経104度47分)	シンガポール沖を航行中、小型船から6名のナイフ武装海賊が乗り込み、当直士や日本人船長を拘束し、船用金等を奪い逃走したもの。	船用金25万円、食料金2,800 <sup>ドル</sup> 、トランシーバー、腕時計、携帯電話の盗難。 乗組員に被害なし	パナマ	7,514トン	一般貨物船	15名 日本1 フィリピン1 インドネシア13	石灰石
⑤	12月24日 0024頃	タイ・Sattahip沖 (北緯12度26分、東経100度54分)	タイ・Sattahip沖を航行中、小型船から銃火器らしきものによって発砲があり、居住区画を数発被弾したが、回避操船によって追跡を振り切ったもの。	居住区画に数発被弾。 乗組員に被害なし。	パナマ	12,559トン	コンテナ船	19名 韓国2 フィリピン17	コンテナ

## ◆ 世界における海賊等事案の動向

国際商業会議所（ICC）の国際海事局（IMB）が1月14日に発表した年次報告書（速報）によると、2009年に世界で発生した海賊等事案の件数は406件（2008年：293件）でした。2003年から2006年まで減少傾向にありましたが、2007年から増加に転じており、2009年は前年から38.6%増加しています。

ソマリアの海賊によるものと推測される海賊等被害件数は217件（同111件）と昨年の約2倍となっており、世界全体の約5割を占めています。被害の特徴としては、2008年と同様にハイジャックを目的とした航行中の船舶への襲撃が多く、沿岸から千海里（約2千km）以上も離れた海域で被害が発生するなど、被害がソマリア東岸の広い海域に拡大しています。ハイジャックされた船舶は47隻（同42隻）、人質となった船員867人（同815人）であり、世界のほとんどのハイジャック事案は同海域で発生しています。

アフリカのその他の海域では、ナイジェリアにおいて28件（同40件）の被害が発生しており、ソマリアの海賊と比較して、船の係留中又は沿岸付近での航行中に、乗組員に対しての傷害などの危害行為を伴う被害が多く報告されています。

東南アジアの海賊被害件数は45件（同54件）となっており、2003年から減少傾向が続いていますが、マラッカ・シンガポール海峡においては11件（同8件）と3件増加しています。

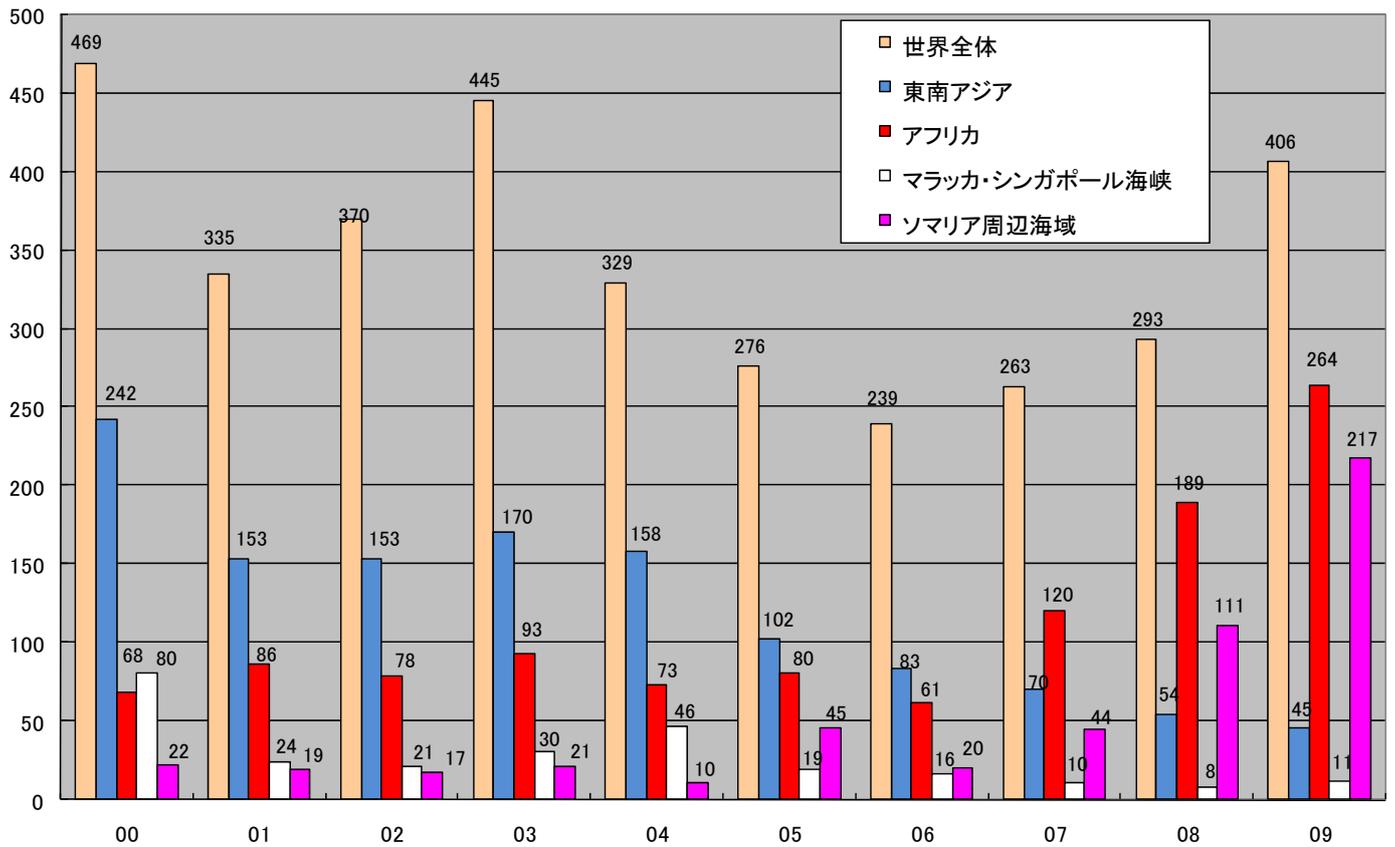
南シナ海の海賊被害件数は13件（同0件）であり、過去5年間の中でもっとも多い件数となっています。ハイジャックは1件で、その他はナイフ等で武装した賊が航行中の船舶に乗り込み、金品等を強奪するケースがほとんどです。

バングラディッシュのチッタゴン港の海賊被害は17件（同11件）であり、ほとんどが停泊又は錨泊中に船舶に乗り込み、金品等を強奪する事案となっており、港別にみると世界で最も海賊被害が多く報告されています。

注) 国際海事局（IMB）は、国際貿易等に関する取引慣習の統一化等を行う民間団体である国際商業会議所（ICC）の専門部局であり、海賊など海事関係の犯罪に対する防止対策等について、独自に情報を収集し、その分析等を通じて、広く海事関係者に助言を行っている機関です。

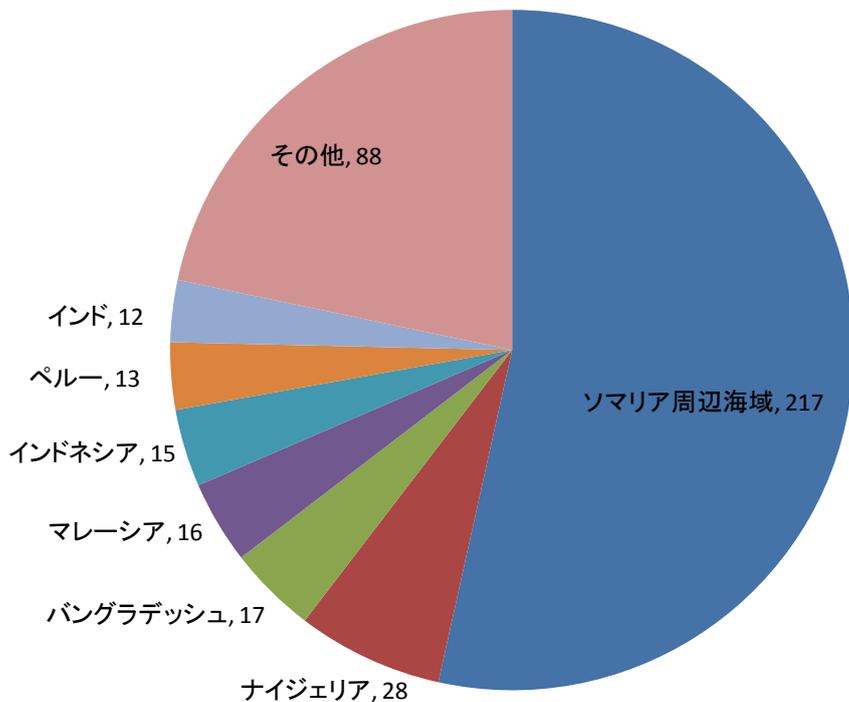
# 世界における海賊等事案の発生件数の推移

別添5



(注1) マ・シ海峡及びソマリア周辺海域の件数は、それぞれ東南アジア、アフリカの内数である。

## 海域別の発生状況(2009年)



(注2) 2000年から2008年までのソマリア周辺海域の件数は、ソマリア及びアデン湾・紅海の件数の合計。  
 2009年のソマリア周辺海域の件数は、IMBの年次報告書(2009)における整理から、ソマリア及びアデン湾・紅海の件数にアラビア海、インド洋、オマーンにおける海賊事案計6件をソマリア周辺海域の海賊事案として計上している。